

[最新のトップページへ>](#)
[これまでのNGOs・KOBsの救援活動一覧へ>](#)

エルサルバドル地震救援

最終更新日 2001年5月12日

■第10報(2001年5月12日)



ニュース第9報で、プロジェクト開始のためのセシモニーがもたれるというお知らせをしましたが、送金の手違いでクワテモック氏がエルサルバドルに
いる間に資金が受け取れず、結局セシモニーは実行できませんでした。申し訳ありませんでした。プロジェクトの進捗状況については今後随時お知らせ
致します。
仮設住宅プロジェクトは少し足踏み状態ですが、クワテモック氏は別のプロジェクトの準備をしていたようです。詳しい内容はわかりませんが、防災と
災害時のリスク軽減のための啓発・啓蒙プログラムとのことです。3段階に分かれていて、最初は全国から集まった30人ほどのリーダーに研修し、彼
らからそれを各々4人程のサブリーダーに研修する。さらにサブリーダーたちが各々4人程のサブサブ(?)リーダーに研修し、こうして研修を受けた600
人余りの人々が自分のコミュニティーにそれを広げ、市民ひとり一人に啓発・啓蒙されていく様になっているようです。詳細が送られてきたら支援
対象にすることが常任委員会で検討したいと思ひます。

なお、クワテモック氏からエルサルバドルの写真がたくさん送られて来ました。
地震から3ヶ月経った被災地は未だに復旧してはいないようです。この写真を展示等に使っていただける方はご連絡下さい。(掲載の写真は研修のもの)

■募金の振込先■

郵便振替 口座番号 00960-2-12443
加入者名 災害救援委員会
※通信欄に「エルサルバドル支援」と書き下さい。
※なお募金総額のうち、15%までを収受として事務局運営費に充当させていただきます。

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で5月1日現在です。
手島由美子様、兵庫中学校様(兵庫県)

[エルサルバドル地震・インド西部地震・救援委員会事務局からのご連絡\(5月8日更新\)](#)

[エルサルバドル地震・インド西部地震・救援委員会事務局からのご連絡\(4月16日更新\)](#)

[エルサルバドル地震・インド西部地震・救援委員会事務局からのご連絡\(4月11日更新\)](#)

■第9報(2001年4月2日)

前回お伝えしたソノソナテ県サンジュリアン地区での救援プロジェクトを遂行するため、メキシコのクワテモック氏が再び現地入りしました。彼から報告が来ましたので、ご紹介しま

私は今(3/30)エルサルバドルにいます。この数日穏やかだったのに、昨日の朝11:00am 新たな大きな地震(M6.4)が再びこの国と、神経質になっている人々を襲いました。今までの
地震で既に多くの方が被災しているのので、復旧は大変困難になるでしょう。再建の過程に地元の資源をつき込むのは不可能なので、外国の支援が最も重要です。
私はいくつかの組織と被災者団体とコンタクトがあります。前にも言ったように、2度目の地震(2/13)は主に国家の中心に近い地域で起こりました。現在、問題は4月から始まる雨
期のため複雑になってきています。雨期が少しでも遅れて欲しいのですが、通常4月に始まりす。
来週の始め「サンジュリアン」の人とセシモニーを持つと考えていますが、それについては又連絡します。

このセシモニーとは、プロジェクトを始めるに当たってお金の授与式をし、PRとともに住民への自覚自分たちの手で再建していくというを促すもののようなです。次の報告を楽しみに
したいと思ひます。

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で2月20日現在です。
平澤様、加美町役場様、佐々木様、ソノ国際交流協会様、在日韓国青年連合兵庫地方協議会様(以上兵庫県)、橋本南高等学校様(栃木県)、鶴川様、カリタス大阪様、全真言宗青年連盟様(大阪府)、千葉市国際交流
協会様(千葉県)、明治生命・職員街一同様(東京都)

■第8報(2001年3月10日)

報告会が開催されました。

3月2日18時よりインド西部大地震・救援委員会と合同で、これまでのエルサルバドル救援活動の中間報告会が開催されました。常任委員の大江氏(神戸YMCA)がこれまでの経緯と
先遣隊として現地入したメキシコのクワテモック氏のレポートを説明し(詳細は過去のニュースをご覧下さい)、今後の支援活動としてエルサルバドルYMCAから提案されたプロジェ
クトが紹介されました。下記にその概略を掲載しますが報告書が必要な方はご連絡下さいHPにも掲載してあります)。なお、このプロジェクトの実施に当たってはクワテモック氏が随
時助言します。

<救援プロジェクト>

- 概要
1. 専門家の技術指導・監督、及び資材提供により、被災者自身が仮設住宅を建設することを 支援する。
2. 対象地域
ソノソナテ県サンジュリアン地区(地域の5割のインフラに被害)
→犠牲者が多く、被害の度合いが大きい。政府の支援が行き届いていない。
3. 対象世帯
50世帯→全壊で、子どものいる5人以上の家族。女性の世帯主を優先して選択
4. 期待される効果とプロジェクトの内容
・対象世帯・YMCA(行政当局が定期の集会を持つ
・地域の復興に向けた開発委員会の設置(男女で構成)、地域ニーズの発掘、住民の自立へ 向けた教育、インフラの整備と維持を目指す
・2001年3月→5月を目途→対象世帯とYMCAの承諾による住居モデルが基本
5. プロジェクト予算
総額 US \$10,000→約121万円
内、仮設住宅資材(木材・薄鋼板・クギ等) 約\$7,500
管理・運営・指導費 約\$2,500

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で2月21日現在です。
大谷様・小室様・神戸大学クワテモック・コープこう労働組合様・兵庫県国際交流協会様(以上兵庫県)ニューリーディング会様(大阪府)松塚様(大分県)

■エルサルバドル地震・救援委員会報告(3月2日)

■第7報(2001年2月15日)

<クワテモック氏より>

すでにもう新聞その他マスコミ報道を通じてご存じかと思いますが、先日2月13日にエルサルバドルでマグニチュード8.1の地震がありました。今までお伝えしていましたように、当
委員会ではメキシコのクワテモック氏に現地視察として現地入りしていただきましたが、そのクワテモック氏より今回の地震のレポートが入っておりますので、ご紹介いたします。

今日ちよとエルサルバドル大地震の二ヶ月後、8時27分に新しい地震が起こった。マグニチュード8.1程度で20秒続いた。震源地は、サンサルバドルから20km離れたところで深さ
320kmだった。

前の地震で被害を受けた教会が今回の地震で崩壊した。Sonsonateだけでなく、家屋の75%が崩壊したSan Vicenteでも現時点で15人が死亡し500人が負傷してい

る。 Pazで50人が死亡しCuscatlanでは午後3時、92人の死亡と925人の負傷が数えられた。学校は閉鎖された。新しい土砂崩れも発生している。電話も不通、いくつかの病院も被害
を受けた。人々はショックを受けている。このような短期間に、同地域で大きな地震が2度起こるのは極めてまれである。多分これは1月の大地震の余震だろう。Nonualcoと
Cuauhtemocのようには甚大な被害を被った。

4月1日現在の最新情報は、死者の数237名、負傷者は1,800人にのまっています。
多くの学校が被害を受けました。地震の発生時刻が、午前8時27分だったので死者の多くは、その時学校にいた子どもたちだった。彼らは、8時に学校に行くのです。国中がショッ
クを受けています。多くの人々は、余震を恐れ、家がそれほど被害を受けていなくても外で寝ています。小さな余震がはじくさん起こっています。

[エルサルバドル地震・インド西部地震・救援委員会事務局からのご連絡](#)

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で2月15日現在です。
内田様(広島県)、小川様、浄福寺様、武村様、安藤様、坂井様、坂本様、出石町国際交流協会様、一宮町国際交流協会様、森花様、東田様、田島様、赤田様、岡本様、木本様、西山様、藤原様、岡本様、田中様、松浦様(以上
兵庫県)

■第6報(2001年2月3日)

<クワテモック氏より>

エルサルバドルでのスケジュールは、とてもハードでした。今インド西部の地震でニュースは持ちざりとなっていることでしょう。2つの国、1つは大きく1つは小さい国ですが、大地
震で被害を受けたことはとても残念です。インドについて多くのニュースが流れていることと思いますが、日本人々とこのことをシェアできるように、私はエルサルバドルでの地
震のことを言わせてもらいます。

エルサルバドルは、中央アメリカで人口8,000,000人の最も小さく、最も人口の多い国です。この地震は国全体に被害を与え、ここでの全ての生活の状況や命に重要なダメージを
与えました。その最も大きな事は、被害と破壊を与えた古いビルの集まり、教会、図書館、病院、公共機関も被害を受けています。道路、ハイウェイ、水道特に病院と健康のための
公共サービスは、最も重要になってます。多くの学校もひどい被害を受けているため、これ以上は使えません。1,500人に一人の割合で死者が出ました。

国全体でも、それぞれの人に一人の割合で地震の被害を受けています。政府は、多くの団体や国から受け取った救援物資やお金を使っています。この先長い間良い状況には
ならないでしょう。

1月31日朝7時にサンサルバドルを離れて、地元のYMCAの人々と一緒にアルメニアに行きました。Mayorの町の人々とミーティングしました。多くの貧しい家族が、復興再建のため
に移動する予定の場所を訪問しました。家賃を支払う貧しい家族のために、ここはとても重要です。今、アルメニアの自治体は、貧しい人々を新しい都市に移し、彼らの家の再建を
支援しようとしています。それから私たちは、どの家が崩壊被害もひどいサンアントニオを訪問しました。その後、同じ地方自治体にある2つの田舎の地域を訪ねました。1つは
ElGuayado、もう一つはLosMangosといいい、被害を受けた場所です。
それから、私たちはアルメニアに戻りCuauhtemocの町の人と大きな被害を受けた付近の5人の代表者と我々を、Mayaの3つのNGOとミーティングをしました。その他の2つは、生態の分野で
働くNGOと法律のアドバイスをするNGOでした。将来の復興の考えがミーティングで話されました。私は、含む人々と興味深い会話をしました。私は夜10時頃サンサルバドルに
帰ってきました。

2月1日は朝YMCAのスタッフとミーティングをしました。午後にはPinars de Suizaと呼ばれるSanta Teclaにある避難所を訪問しました。そこで私たちは、Councilの人々と被災者の
代表者達とミーティングをしました。その後、私は被災者を訪問しました。そこで私は人々と会話し、子どもたちと特別な時間を持しました。
明日は、朝San Agustを訪問します。この町は地震で一軒の家も建っていないと思われます。私はその地域の人々とミーティングをしました。また、後日連絡します。

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で2月1日から2月9日現在です。
深江様(兵庫県)川崎様(広島県)辻様(兵庫県)正善寺様(兵庫県)木馬の会様(兵庫県)ライオンス・クラブさん(兵庫県)愛の会500様(神奈川県)

[エルサルバドル地震・インド西部地震・救援委員会事務局からのご連絡](#)

■第5報(2001年2月1日)

<クワテモック氏現地入り>

第4報でもお伝えしましたが、現地入したメキシコのクワテモック氏より、現地レポート第2報が入ってきておりますのでご紹介いたします。

27日(土)ACDRPというコミュニティ形成のためのコーディネート団体の人々とSonsonate地区を訪問しました。道は最悪の状況です。
私たちはCalucueという小さな街に着きました。まだ、救援の手が届いていない場所です。幸運にも彼らは地震の時ほとんど家に家らず、家に残っていた少数の人たちも避難でき
たため、避難所で生活していました。

そのため、死傷者はいませんが、街のダメージは大きく、貧しい生活を強いられています。私は節約することにして、この地域の人たちのために少し食料を買いました。彼らは
皆、あなた方に感謝と恩恵を送っています。

28日(日)私たちは、San Salvadorを離れました。私は、FUNDASALの人たちと一緒に、Sonsonate地区を訪問しました。
FUNDASALは、1,700家族のためにSonzacate地区で都市プロジェクトを開発しています。彼らには、ドイツの財政サポートがあります。NahuizalcoとIzalcoという小さな街を訪問し
ました。2つとも大きな被害を受け、家がありました。避難所もそれそれありました。貧しい人々のほとんどが、地震の被害者となっています。

サンサルバドルに帰る途中、とても荒れた街Armeniaに少し寄りました。どの家も崩壊していました。大きな避難所と悲しみがありました。
また、地元YMCAの秘書の方とミーティングをしました。それからスタッフ12人とミーティングしました。そしてボランティア50人とミーティングしました。午後には研修会をボラン
ティアしました。その後Santa Tecla地区へ行ききました。避難所で生活している200家族800人を対象とした、今後の活動のための市の職員とミーティングをしました。

<事務局より>

ご存知の通り、エルサルバドル地震とインド西部大地震支援の2つを並行して救援活動を行っています。委員会加盟団体その他関係各所のみならずには、募金等の協力をしてい
たいと考えています。今回は、以前もサンビエーラ大洪水支援の際も行った、「1コイン運動」を展開します。更に、広く一般の方々にも支援を呼びかけると同時に、募金の集積所として
集積活動に参画して頂きたいと思っています。

事務局としてご協力いただける方は、事務局までご連絡下さい。また、募金の取り扱い(は「NGO災害救援金」とし、委員会の責任においてエルサルバドル支援、もしくはインド支援
に使われるいただきます。(なお外貨のコインの寄付につきましては、ユーロでの活動への支援金とさせていただきます。))
2月1日現在、集積所としてご協力いただいているところとしては下記の通りです。(また、お金のことで少しでも協力いただける方に対しては、事務局で確認を取った上で掲載させ
ていただきます。)

えにいわい(神戸市中央区・078-332-1318)、キリグエロジョ(神戸市中央区・078-41-7088)、カフェアリアン(キリグエロジョ姉妹店)、姉妹(神戸市兵庫区・078-576-1685)、THE PRIVATE CAFE(福
岡県北九州市小倉北区・093-531-8339)、ひまわり国際ラザ(神戸市中央区・078-230-3060)、騎兵隊、竹林寺(高知県高知市・0880-82-3065)、100さんランド大開店(神戸市兵庫区・078-578-5822)、100さんランド
新長田店(神戸市兵庫区・078-643-4220)パステリツェリア イル パッパガッツ(神戸市東灘区・078-453-8859)、ティラコム(神戸市中央区・078-371-1565)順不同

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で1月30日から2月1日現在です。塗様(兵庫県)池田様(兵庫県)守屋様(神奈川県)明石緑都市委
員会(兵庫県)東原様(大阪府)市川様(東京都)

■第4報(2001年1月29日)

<クワテモック氏現地入り>

メキシコのクワテモック氏が、1月26日に現地入りしました。そのレポートが入ってきておりますのでご紹介いたします。

最新の被害状況(26日の公式発表)
被災者総数11,140,111/死者728人/負傷者4,440人/全壊家屋74,995軒/被災家屋118,326軒/地滑りによる被害家屋688軒/避難所856ヶ所

26日ACDRPというコミュニティ形成のためのコーディネート団体の代表者達とミーティングした。彼らは新興団体ではなく、過去16年に渡って真剣に取り組んできている団体であ
る。彼らは、FCOC(コミュニティ組織と中連盟)と呼ばれる組織の代表もしくは、本部スタッフで、より広域のコミュニティ組織政部門の一部でもある。彼らは、直接84コミュニ
ティのための働きを行い、また代表者を通じて100以上のコミュニティの支援もしている。彼らがやっているコミュニティを助けるため避難所で生活するための衣類、毛布、食糧を集め
ている。

私は彼らとSanta Tecla地域に行った。Santa Tecla 方面の道路を進み出してもまだ私たちの市を一望した。周辺には地震によって発生した地滑りの被災地がいくつもある。
Santa Teclaの数百の家を埋めた。Comasaguaに向かう途中120人の人とコーヒー豆の農家30人、30人の道路工事者のみこんな別の大きな地滑りを見ることができた。救援活
動はほとんど行われていないようだった。

Maria Victoriaという小さなコミュニティを横切ったが、そこには82世帯が残っていた。8人が死亡し、15人が行方不明である。彼らは、貧困生活をしている。
帰る途中私たちは、120世帯があったというGuadalupe IIという小さなコミュニティに立ち寄った。彼らは山の近くに通じる道に自分たちの大変美しい家を建てていた。地震により
り彼らの家は倒壊したが、埋まっていた。24人が死亡し、20人以上が行方不明である。

現在も余震が続いている。2500回もの小さな地震が1月13日以降発生し、私自身現地入りしてすでに4回の多い余震を感じた。
私は(32つの地震が起こったこと)を知った。1つはメキシコのOaxacaでマグニチュード5.5。幸い被災者ははいないようだ。
もう一つは、逆に大変大きなマグニチュード7.9の地震がインドを襲った。このことを知らずにして申し訳ない。

<事務局より>

クワテモック氏のレポートの最後にもありますように、1月26日にインド西部でマグニチュード7.9の地震が発生しました。すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、1月27日に
「インド西部地震・救援委員会」を発足しました。そこで、事務局ラザ(神戸市中央区・078-230-3060)、騎兵隊、竹林寺(高知県高知市・0880-82-3065)、100さんランド大開店(神戸市兵庫区・078-578-5822)、100さんランド
新長田店(神戸市兵庫区・078-643-4220)パステリツェリア イル パッパガッツ(神戸市東灘区・078-453-8859)、ティラコム(神戸市中央区・078-371-1565)順不同

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で1月27日から29日現在です。
秋生真教様(群馬県)橋原様(兵庫県)福島様(大阪府)

■第3報(2001年1月26日)

<事務局より>

当委員会では、エルサルバドルYMCAとメキシコのクワテモック氏をカウンターパートとして支援することを第1報にてお伝えしました。そのエルサルバドルYMCAよりレポートが入りま
したのでご紹介いたします。また、加盟団体のコープこうへより指定寄付として500万円をエルサルバドルYMCAに送金しました。メキシコのクワテモック氏は、1月25日より10日間ほど現地
入りのための報告が入ってきました。後日詳細なレポートがりましたらニュースにてご紹介いたします。

<エルサルバドルYMCA>

緊急段階では、75人のYMCAボランティアと専門技術チームによって組織化が行われた。

- 物資・食糧を梱包・配布するチーム
- Santa Tekura緊急センターへ参加するチーム
- 地方行政に参加・調整するチーム
- 総合チーム
- また、主な被災地であるSanta Tekura,Armenia,San Pedro Nonualcoで緊急時に行った活動は
- ボランティア委員会と団体の組織化
- 食糧、個人衛生用品、薬の購入・分配
- 被災者支援のために地方行政の調整
- San Tecla緊急センターとの調整
- その他リエージョン活動や精神面の支援
- 今後は、上記のチームを元に被災者に対して3段階にわたって活動を発展させていく。
- 緊急時一急を要する人、生死に関わるような人への対応
- 食糧・衣服・健康生活に最低必要なものの確保
- 緊急後一肉体的・精神的・経済的に苦しい人への回復と復興を目指した活動
- 復興段階一経済的・社会的な発展を確保する活動

<日本人現地滞在者からの情報>

事務局の知人の紹介で、現地滞在している方から下記のようなレポートが入りましたのでご紹介します。また、詳しいレポートや現地の写真はホームページ
<http://home.att.ne.jp/wood/yusuke/elsal/>に書き下されています。

地震から10日になつち、やっと当地も落ち着きを取り戻してきました。地元紙によるとこの震災による被害はエルサルバドルの国家予算の50%に相当し、またCNN報道によると「家
屋の再建には26年、国内のインフラ整備には10年かかる見通し」とも言われ、内戦により荒廃した国土を10年かけて復興させてきたこの国は、また重荷を背負い長い復興への道
りを行っていくことになるそうです。

また今回より、ご寄付を頂いた方のお名前をご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。以下、順不同で1月19日から26日現在です。
岡沢様(兵庫県)山田様(兵庫県)津田様(兵庫県)堀様(兵庫県)竹園様(兵庫県)山川様(大阪府)前田様(大阪府)東条町国際交流協会様(兵庫県)富藤様(大阪府)伊藤様(兵庫県)千代田様(大阪府)の野様(兵庫県)
長田様(大阪府)田中様(兵庫県)

■第2報(2001年1月22日)

メキシコのクワテモック氏より返信があり、1月23or24日から2月1or2日まで9日間、現地に入ることができるとのことです。早速入って貰うことにします。また、彼から新しい被害状
況が以下のようになっています。

死者709名、326の公共建築物が被害を受けた(内教会258、病院6、保健所28)。また1,119の学校が被災している。1,750回もの余震があり、人々は神経質になっている。ラスコ
リナ地区では伝染病の恐れがあり、検診がされている。高速道路や一般道の被害が大きく、郊外の町村の状況は未だにつかめていない(1/18現在)。
もう一つの大きな問題は政治的なものだ。与党は極右翼であるARENAだが、多くの自治体は野党であるFMLNIに支配されているので、援助が届いていない。最大の死者と被害
を被ったサンタテクラはエルサルバドル最大の避難所の場合、メキシコ政府から送られた食糧でしのいでいる状況だ。
また、アメリカのある火山学者は西部サンタアナ県のイラマペック火山が噴火するかも知れないと警告している。この火山は1904年以来沈黙を守っている。

※また、当委員会に参加している国際協力アカデミーひろしま(AICAT)からの情報でも以下のように、現地の状況が入っています(AICATホジュラス支部のスタッフが1/14→16
現地入りしました)。

ラ・ブレシアという新聞に載った警察情報によりますと、609人が死亡し、1,000人以上が行方不明、1,830人の負傷者がいるとのこと。また、17,941人が避難、25,081軒の家屋
が被害を受け、7,891軒が全壊したそうです(1/15現在)。被害総額は110億ドルと見積もられ通り、これは同国の国家予算の50%に相当します。
サン・アグスティンという小さな村から帰ったところでは、サン・アグスティンでは、すべての家屋が壊れたように見えます。被災者数は96,000人で、人々は路上にいま
す。屋根用のプラスチックやベッドカバーなど、すべてが緊急に必要な状態にいます。この村は、見たところ、住民が望んでいるであろう援助を受けていないようです。瓦礫の撤去は始
まっています。子供、特に風邪を引いている子供への薬が緊急に必要とされています。

※1月20日、神戸海洋博物館で開催された「メリアルカンパレンス8」の会場で、「エルサルバドル地震救援委員会」の募金箱を設置して下さり、¥881が集まりました。主催者の
みなさん!会場参加者のみなさんありがとうございました。

■第1報(2001年1月19日)

2001年1月13日午前11時35分(日本時間1月14日午前2時35分)ごろ、中米エルサルバドルを中心に大きな地震が発生しました。
1月17日現在、死者は1666名、負傷者2,500人以上、全半壊家屋は約934,000棟、避難者数50,000人という被害を出しております。
大地震の後にも、エルサルバドルでは強、揺れが続いており、人々は避難所や直ぐに復旧を要する生活を強いられています。行方不明者は500人以上に上り、救援活動が続け
られています。また国家非常事態宣言が宣言されると共に、国際支援を求める緊急アピールが行われました。

エルサルバドルYMCAの動き

地震発生後、YMCAが被災現地のエルサルバドルYMCAへの支援募金を開始致しました。現在、エルサルバドルYMCAは避難所を中心に支援活動を計画しています。そこで、今
回も救援委員会を立ち上げ、エルサルバドルYMCAを通じて被災地の支援活動を行います。

クワテモック氏の動き

メキシコで1985年に起きた地震以来活動しているNGO「メキシコトラテロルコ地区住民連絡会」の事務局長、クワテモック・アルバカ・チャベス氏がエルサルバドルの被災地視察
を引き受けてくださるということで、YMCAと平行して支援していきたいと思ひます。

彼はトルコ地震の際、私たちが第一線で第二線で現地に入っております。
また1998年1月に神戸で行われた「市民とNGOの防災国際フォーラム」でパネリストとして来られた際、「忘却は最大の敵である」という言葉を残されました。
その後から、以下のようなレポートが届きました。

「復旧は1986年のエルサルバドル地震の時と同じくらいに行きました。そして「エルサルバドル地震被災者全国組合」(UNADES)の結成を支援しました。この組織は、「復旧期のみならず」
大地震の後にも大変有効なものでした。しかし震災の時期は戦時中という難しい時期でした。私は、いまだに現地に親しい友人がいます。だから、今回私が現地に行っても彼らは
協力してくれるでしょう。その友人から1月に死者883人、2,900人負傷、45,842人の避難者、少なくともサンタテクラでは1,200人が生き埋めになっている。」エルサルバドルの議会は、
物価を安定させて経済危機を避けるために新しい法律を制定した。

■救援委員会立ち上げのお知らせ

2001年1月13日午前11時35分(日本時間1月14日午前2時35分)ごろ、中米エルサルバドルを中心に大きな地震が発生しました。
1月17日現在、死者は1666名、負傷者2,500人以上、全半壊家屋は約934,000棟、避難者数50,000人という被害を出しております。
大地震の後にも、エルサルバドルでは強、揺れが続いており、人々は避難所や直ぐに復旧を要する生活を強いられています。行方不明者は500人以上に上り、救援活動が続け
られています。また国家非常事態宣言が宣言されると共に、国際支援を求める緊急アピールが行われました。

地震発生後、YMCAが被災現地のエルサルバドルYMCAへの支援募金を開始致しました。現在、エルサルバドルYMCAは避難所を中心に支援活動を計画しています。そこで、今
回も救援委員会を立ち上げ、エルサルバドルYMCAを通じて被災地の支援活動を行います。

また、メキシコで1985年に起きた地震以来活動しているNGO「メキシコトラテロルコ地区住民連絡会」の事務局長、クワテモック・アルバカ・チャベス氏がエルサルバドルの被災
地視察を引き受けてくださるということで、YMCAと平行して支援していきたいと思ひます。
クワテモック氏は1998年1月に神戸で行われた「市民とNGOの防災国際フォーラム」でパネリストとして来日された際、「忘却は最大の敵である」という言葉を残されました。

[このページのトップへ>](#)

エルサルバドル地震・救援委員会
愛の光500/エイディア災害研究所/カリタス大阪/神戸アジアアソシエ推進協議会/神戸市福祉総合センター/神戸学生青年センター/神戸定住外国人支援センター/神戸YMCA/コープこうへ国際協力アカデミーひろしま/(財)神戸国
際協力交流センター/サンチャコ国際ボランティアセンター(SVA)/震災がけなく全国ネットワーク/震災を生きる宗教者の集い/新日本救済青年会近畿連盟/たけりコミュニティセンター/日本青年奉仕協会(VVA)/被災地NGO
協議センター/兵庫県外の人道支援協議会/兵庫県国際交流協会/兵庫福祉ボランティア委員会/ゆめ風企画/ゆめ風10億円基金

連絡先 被災地NGO協同センターngo@pure.ne.jp
兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10 TEL 6522-0801
TEL 078-574-0701 FAX 078-574-0702